

肺癌の検査について

日本肺癌学会は、第41回日本肺癌学会総会(平成12年11月2日、東京)において「禁煙宣言」を行いました。その内容を概略すると以下のようなものです。

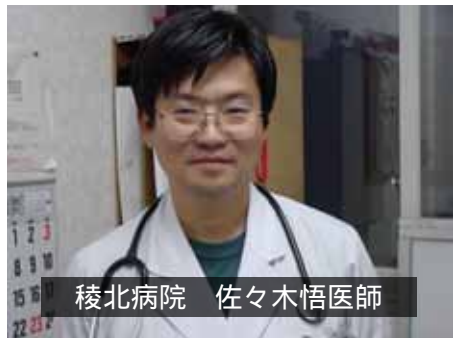
肺癌の死亡数は、わが国の人口動態統計によると、1998年に男女合わせて5万1千人となり胃癌を抜いて全悪性腫瘍の中の死亡数が第1位となった。今後益々増加し2015年には12万人を越えるであろうと予想されている。

非喫煙者に比べて、喫煙者の肺癌リスクは、男性で4-5倍、女性で2-3倍高いと報告されており、喫煙本数、喫煙年数が増加すれば肺癌リスクも増加する。一方、受動喫煙も肺癌リスクに関係し、夫が喫煙者の場合、非喫煙者の妻の肺癌リスクは1.3-1.5倍に増加すると報告されている。また、喫煙は肺癌以外にも食道、膵臓、口腔・中咽頭・下咽頭、喉頭、腎盂尿管、膀胱癌のリスクを高める。

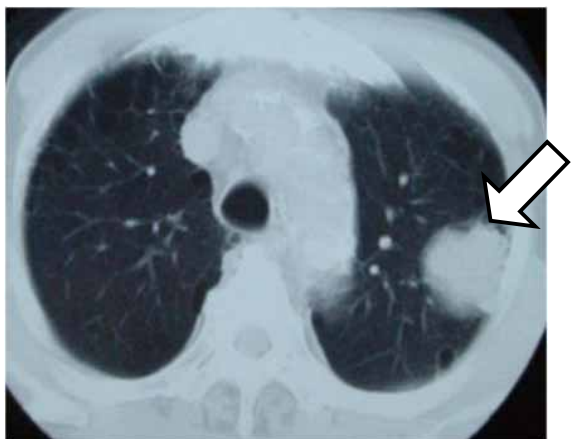
WHO(世界保健機関)の推定では、世界で年間約300万人、日本でも年間約11万人の多くが喫煙が原因で死亡していることが報告されている。

「喫煙が肺癌リスクを大きくし、また肺癌患者の生存を不良にする十分な証拠が蓄積されたことを踏まえて、日本肺癌学会は、医療従事者はもとより広く国民全体にタバコのない社会づくりを強く勧告する。」

以上のように、喫煙の危険性は皆さんご存知のようですが、一方、その診断について従来の胸部レントゲンだけでは難しいと言われており、現在ヘリカルCTの有用性が強調されています。ヘリカルCTは参考に出した小さな肺癌の発見だけでなく、慢性閉塞性肺疾患や、肺炎など多くの疾患の診断を可能にしています。



直径1cmの肺癌



直径5cmの肺癌

